



ま えがきて著者は、欧米における引用・引用句辞典の伝統について概説する。欧米には論述においても論戦においても引用を重視する文化があり、それは中等学校以来の訓練の賜物なのだという。フランスの文系の大学入学資格試験を例にとれば、課題論文にいか豊かで効果的な引用が出来るかが評価のポイント

「面白くて為になる」 カシマ教授の引用と意見

鹿島茂『悪の引用句辞典』中公新書 本体880円

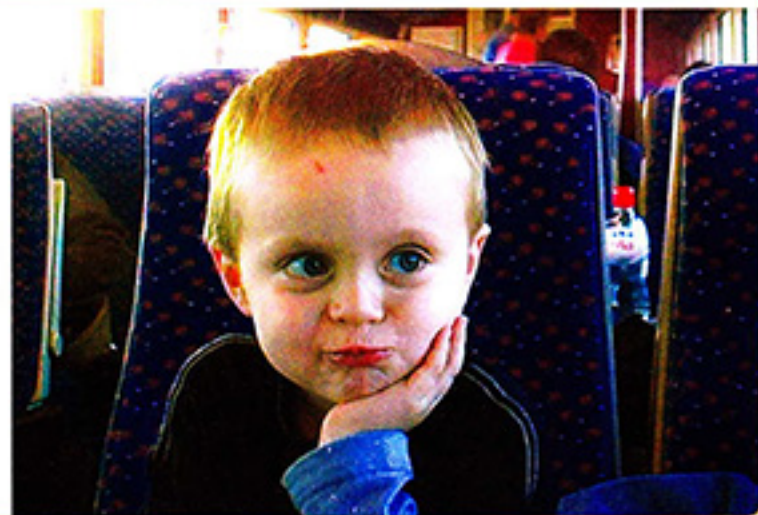
なのだ。本書は、西洋近代の知の巨人たちを中心に、古今東西のさまざまな名論卓説からの引用を掲げ、それをネタに著者が一席ぶつという構成を取るが、さながら出題・解答鹿島茂の一人ディセクタシオン集だ。藤田嗣治の3番目の妻ユキの、一見やさしくてしかし本当はやさしくなかった藤田についての回想から紡がれる人文主義的な洞察があるかと思えば、ユゴIを踏まえつつの小泉政権の政策分析のように当世日本の政治や世相へも大胆な切り込みを重ねる。いかな超絶秀才高校生とて、人生の酸いも甘いも噛み分けた鹿島教授のような自由自在な引用はできまい（当たり前だ）。もちろん、すこぶる面白いのだからして、バカ口レアは首席合格である。

イングランド東部ノーフォークの片田舎に住む若い母親と幼い兄弟姉妹（男女各2人）が、バスや電車を乗り継いで、ロンドンの刑務所に服役中の父親に会いに行く。監視員の目が光る面会室で、些細だけれど大切な日々の出来事を報告し合う家族。子どもたちにとっては、変らず大好きなパパだし、母親も彼を心底責めてはいない。とはいえ、昼夜を問わず働いて家計を支える彼女にも、やはり心が揺れる瞬間はあった……

「いとしきエブリデイ」を監督したマイケル・ウィンターボトムは、実写版の撮影期間5年、主役は実の兄弟姉妹の現実感

撮影期間5年、主役は 実の兄弟姉妹の現実感

マイケル・ウィンターボトム監督『いとしきエブリデイ』
11月9日より、ヒューマン・トラストシネマ有楽町ほかにて全国順次公開



©7 DAYS FILMS LIMITED 2012 ALL RIGHTS RESERVED

流れのなかで確実に成長してゆく。彼らの素直な演技が、長閑やかな田園風景とマイケル・ナイマンの詩情溢れる音楽でひととき映える。

平

岡養一（1907〜81）は戦前若くして渡米、彼の地ではNBCラジオの

毎朝15分のレギュラー番組を持ち、「全米の少年少女はヒラオカの木琴で目を覚ます」といわれるほどの人気を得た木琴奏者である。戦後もアメリカと日本を行き来して旺盛な活動を続けた。本書はその平岡と幼少の頃に共演したことがあるという著者（マリンバ奏者）が、今や伝説と化した彼の音楽人生を丹念に追った一冊。木琴は「シロフォン」（英語でサイロフォン）といい、戦後に普及したマリンバとは、実はそのルーツも音の性質も違うものらしい。マリンバに取って代わられ、年々演奏するプロもいなくなっていくこの楽器を平岡は生涯愛し、使い続けた。そんな

マリンバ奏者が綴った 伝説の木琴奏者ものがたり

辻谷雄三『木琴デイズ 平岡養一「天衣無縫の音楽人生」』
講談社 本体1900円



な一途な人間像を、同業者ならではの経験と分析に基づいて、平易な文章で浮き彫りにしてゆく。加えて話は単なる評伝にとどまらず、マリンバとシロフォンの成立過程、木琴にまつわる意外なエピソード等々、具体的な周辺事情が随所に盛り込まれ、微に入り細を穿ったその取材力にも圧倒された。音楽知識なしでも楽しめる労作。

小

誌8月号本欄で「横尾忠則全装幀集」を紹介した際、「扇情的なまでに読む気がソッる」と評した『絵草紙うろつき夜太』（75年）が、復刻版として蘇った！

元々は73年の1年間「Weeklyプレイボーイ」の巻頭を飾った4色カラ

柴鍊×横尾の天下の奇書 38年目の完全復活

柴田鍊三郎作、横尾忠則画『復刻版 絵草紙 うろつき夜太』
国書刊行会 本体2万2000円

1グラビア6頁の連載小説、全50回の長丁場を、柴田鍊三郎と横尾は都内のホテルで共に缶詰となつて乗り切った。それは一蓮托生というよりも、文と絵の丁々発止のせめぎ合い。互いに奇抜さをエスカレートさせていった感がある。横尾がイラストレーションとレイアウト、文字組の全てにわたって奇想を凝らせば、柴鍊は原稿を書けなくなった顛末を長々と挿入したり、「作者」として夜太とメタな会話を交わしたり。なかでも隻腕の剣士「地獄人」こと六木神三郎と眠狂四郎との一騎打ちが、このヴィジュアルだからこそその空前絶後の名場面。次はどんな趣向かと、頁を繰る手が止まらない。函と特製小冊子、ポスターを新たに付けた限定2000部、再版なし。